令和４年度第１回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日　時：令和５年１月 31 日（火）
13 時 30 分～16 時 30 分
場　所：青葉区役所４階会議室
出　席：島田委員長、荒井委員、小川委員
加藤委員、齊藤委員
※過半数の出席により委員会成立

1　開会

2　挨拶　仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会　委員長　島田　福男

3　議事

（1）議事録署名人選定　　小川委員

（2）令和４年度まちづくり活動助成事業　事業報告会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答、意見等

①　特定非営利活動法人　珀杜

委員　　スズメバチ対策において、臨時活動と通常活動と２つあるが、何か違いがあるのか。

説明者　　通常活動というのは、毎月第１日曜日に活動しているものであり、臨時活動はその合間にみんなで集まろうということで活動していた。

委員　　通常活動も臨時活動も、もともと予定されていたものなのか。

説明者　　臨時活動は予定されたものではなく、去年の活動状況などを見て、カナブン、コガネムシ、甲虫類などを間違えて捕獲しないように捕獲機をこまめに交換するために頻繁に行っていた。

委員　　この活動は自然を守る活動として、とてもすばらしいと思うが、何人ぐらいの方が参加しているのか。また、青陵中等教育学校の中の森にあるということだが、学校の生徒の参加はあるのか。

説明者　　名簿上は 12 人だが、通常５～８人程度で活動している。通常活動や臨時活動への学校生徒の参加はないが、学校側からは、中に入って観察した、入って生徒と一周してきたなどといった話は届いている。ゆくゆくは連携して、もっと生徒を巻き込んで活動したい。ジオラマの方は、生徒に参加いただいて進めている。

委員　　ハチが駆除の対象であると同時に、生態系の中での役割を果たしているというのは興味深く思った。今年度植物の図鑑をまとめるというお話だったが、ハチが駆除対象であると同時に生態系での役割を果たしているというその有様を、例えば

観察会なり何らかの形で残していくと、より自然というものを多面的に知るきっかけになるかと思う。

説明者　これについては我々も痛感している。ご指摘のとおり、植物だけでなく昆虫類、動物類、鳥類も生息している。そのうち昆虫類は、通常水辺があれば水生昆虫などがより入ってくるものだが、周りが団地などで明るいため、虫がそちらに行ってしまい少なめである。そのためハチが多いというのはバランスが違うように感覚として持っているところであり、植物だけでなく、生態系を広く提示できればと思っている。

委員　スズメバチは刺されると大変なため、駆除するのは仕方がないと思うが、生態系のことを考えると必要以上には難しいのかなと思う。実際に刺された方はいらっしゃるのか。

説明者　ハチや虫も含めて、そういった被害はない。ただヤブカが多いため、虫よけはつけてもらっている。

委員　人が入ることによってハチや昆虫類も人を避けたところに巣を作ったり、繁殖の場所を設けたりすると思う。適度に人が入ることによって、そういうものも人目につかないところに移っていくかと思う。図鑑に大変期待しているが、図鑑が出来上がったときの活用をどのように考えているのかお聞かせいただきたい。

説明者　学校や市民センター、近隣の方へのアプローチの仕方というのを考えていきたい。地域の市民センターで活動している団体や敷地の近縁部の方々に、理解なり親しみを持っていただく工夫というのを模索しているところだ。

② 栗生の民俗をたずねる会

委員　ウェブページは 12 月から公開になったということだが、この 1 か月半ぐらいの間、どれくらいアクセス数があったのかお教えいただきたい。また、こういう取り組みをしている団体が、周辺の他の地域でもあると、そういうところとのネットワークができ、小中学校の連携というものも一歩進む感じもあるかと思うが、その辺を教えていただきたい。

説明者　ウェブページについてはアクセス数までは把握していない。ウェブページまでたどり着いて頂くために、もっと発信が必要だと感じている。そのためには QR コードを読み込んでもらうところまでいかなくてはと思っている。また、大倉やその奥、また郷六地区あたりの謡の調子は少し違うなどという話は入ってきているが、こういう取り組みをしている団体があるかどうかまでは把握できてはいない。ただそれらの地区でも、集落ごとに少しずつ違うため、それらを詳細に調べることで、どういう風に謡が伝わってきたのか、伊達家となにか繋がりがあるのかなど、もう少し専門的なことにつながると思う。小学校との連携はなかなか難しいとは思うが、市民センターはもう少し強いネットワークがあるため、市民センターのお力をお借りして繋げていけたらと思う。

委員　コロナ禍で活動が制約されて大変だったかと思うが、発刊された冊子をぜひ活用してほしいと思う。生の謡を地域住民、特に小中学生に聞いてもらえれば感動す

ると思う。市内の小中学校ではコミュニティ・スクール、学校運営協議会を令和５年までにすべての小中学校でつくることを目指しており、地域とともに学校を運営することになる。地域にはこういう伝統芸能があるんだと学校に働きかけることで、小中学生に聞いてもらえるようになるかと思う。

説明者　落合市民センターに冊子をお届けした後、実は自分は謡えるという方が２、３人出てきて、小学校の方たちを前に謡ってくださったこともあったそうだ。これからぜひこのコミュニティ・スクールを活用していきたいと思う。

③ 白沢カルデラプロジェクト実行委員会

委員　古仙台湖の大きさ、存在に改めて驚いているところだ。せっかくそういったものがあるのだから、看板や散策コースについてより多くの市民の方に知ってもらえるような工夫が必要かと思う。そこに行かないとわからないということではなく、まち歩き会を開催したり、ガイドブックをネットで公開したりなど、興味がある方々の目に触れる機会を増やすといいかと思う。錦ヶ丘や栗生なども地域に入っており、それらの地域には新しい住民の方が多いと思うので、そういう方々やそのお子さんの小中学生にも知ってもらえるように展開していくとより効果的だと思う。

説明者　参考にさせていただく。

委員　力作のガイドブック、素晴らしいと思った。実際の探訪会に参加できるのは、会員だけになるのか。展示会などは各市民センターなどで行われているので、市民センターと連携して、ミニ探訪会などをガイドブックを利用してできると、より一般の方に広まるのかなと思う。

説明者　ガイドブックは予算がもっとあれば 2,000～3,000 部作りたかったが、1,000 部しか作製できなかった。

委員　探訪会には会員以外は参加できないのか。

説明者　会員以外の参加はある。なお、20 人が行動の限界のため、それ以上来た場合はお断りしている。

④ 一般社団法人 WITH

委員　コロナ禍で大変な中、施設と連携しながら事業を実施できたのはすばらしいと思う。ただ連携先が公的な機関であるので、市民センターや児童館の予算を使っての共催実施となると、団体自身の市民活動としてはどうなのか。マッチングの中で講師を紹介したり、当日一緒に活動したりはしているが、そのサポートをするというよりは、ご自身の活動をどのように広げていき、認知症の方や子育て家庭に届けるのかというところが、お金の動きも含めて課題が残ったのではと思う。ハンドマッサージは接近してのイベントとなると思うが、コロナ禍の中での対面のイベントは、例えば密を減らしたり、場所の工夫をしたりなど、感染対策をしながらであれば事業の実施ができなくはないと感じるが、ご自身でそこが決断できないとい

う部分の一番の不安は、どういうところにあるのか。

説明者　現在はわからないが、当時、市のほうで、認知症カフェの実施は市内でのコロナ陽性者数が 50 人を切った状況で行うというルールがあった。一般的にはだいぶ規制が緩み始めており、実施できないことはないと感じてはいたが、認知症カフェの主催団体である連合町内会が、50 人というイメージが大変大きかったようで、もう少し落ち着くまで待ちたいというご希望が強かった。ハンドマッサージのほうは、民生委員、主任児童委員との共催を考えていが、同様に 50 人のルールをご存じで、もう少し時期を待てないのかという意見が多かったため、実施に至らなかった。

委員　連携や共催をあまり重視し過ぎずに、ご自身たちの団体でできる範囲で、会場を自分たちで借りて自主的に実施するなど、自主事業としての実施機会の確保と経験を積まれていくとよいと思う。

⑤ くよみ郷土研究会

委員　センダイ冠植物園事業はどのような取り組みなのかお教えいただきたい。

説明者　センダイヤマハギ、センダイカンゾウ、センダイキツネアザミ、センダイザサなどセンダイと名前の付く植物を集めたものだ。センダイトウヒレンというものを青陵の森で見つけたことが契機となって始まった。緑化フェアでは４月 26 日から 29 日まで、追廻地区の建物の中で展示をするので、ぜひ見に来ていただければと思う。

委員　ガイドマップは何冊ぐらい製作したのか。

説明者　11,000 部。配布は地域の全 6,200 世帯、小学校の高学年、中学生と、青陵の子供たちで約 2,000 部、これらで 8,000 部強の配布を予定している。

委員　お金が足りないとのことだが、確かに予算はあればあるだけいいかと思うが、この助成事業は３年で終わってしまうので、その後も継続できるようにするためには、やはり自立して活動できるような方法も考えて頂けたらと思う。

説明者　一生懸命がんばりたい。

⑥ 一般社団法人 IKI ZEN

委員　今年度３年目ということで、まちづくり活動助成は終了となるが、来年度以降の事業の予定があれば教えていただきたい。

説明者　来年度も変わらないペースで、自主財源で動いていこうと考えている。今までは私が前に立っていた部分があるが、これからは私ではなく周りにいる仲間に新しいリーダーに立ってもらい、こういう事業に予算を取りたいという時などに協力できるようなかたちで実施していきたい。

委員　３年間活動して知名度も上がってきたと思うので、それを生かしてぜひ続けていただきたい。外国人コミュニティへの集客が思うようにいかなかったという話だったが、どこが原因だと思うか。

説明者　２年目までは、イングランド人のダンサーの方に遊びに来ていただいたりしていたが、その方が帰国してしまった。今までだと、経済活動の中で外国人を含めたさまざまなコミュニティができていたが、コロナの影響で、人々がまちなかに出ていくことも少なくなったため、そういったコミュニティが育たなかった。特に大学生・専門学生がコロナのこの３年間でどこにも出歩けず、サークル活動もままならなくなり、世代の循環が一度途切れた状態になってしまったところが大きいと考えている。今年経済活動が戻ってきたら、また新たなコミュニティや繋がりが出来上がるとは思う。

委員　これからも期待している。

委員　防災・減災について、今年度はパネルではなく、被災地域に観光で足を運んでもらう方向での情報提供とのことが、５回目のイベントで 80 名ぐらい、６回目は 40 名ぐらいの方が来場されているが、その方々はどのようなかたちで被災地域に足を運ばれたか、ご存じであればお教えいただきたい。

説明者　昨年はパネルを見て、実際夏休みの家族旅行等で気仙沼に足を運んだり、石巻に足を運んだという声はいただいていた。今回このクラフトビールフェスティバルのチラシ等を配ったことで、そちらのイベントのほうに実際足を運んだという声も頂いた。

⑦ 八幡町商店街ファンコミュニティ

委員　市からの助成金 350,000 円全額が、セミナー関係費にあてられているということか。受け取った相手先は SDGｓ東北になるのか。市の助成金がまるまるセミナー関係費として特定の団体に流れてしまうというのは問題があると思うのだが、当初の予定からそうだったのか。

説明者　ほかに、毎回１人につき 1,000 円ずつ参加費を頂いている。

委員　高校生にお店を取材してもらうのは、まちにある資産を使うということであり大変良いアイデアだと思うのだが、YouTube の動画は定期的に更新する予定はあるのか。

説明者　八幡商店街のチャンネルができているので、そこにどんどんアップロードしていく。毎年新しい１年生が入ってくるので、取材先を変えて何度か取材をしてアップロードしていくことになる。

委員　セミナー第２回から第５回の内訳を見ると、基本的には商店街のこういう事業をされた方々の振り返りだったり議論であったりというかたちだと思うのだが、そこにセミナー講師料がくっついてきているが、そこでどのような指導、助言が行われたかということがクリアになる必要がある。商店街セミナーの中身を見ると、基本的には参加されている方々の相互の議論であり、ここに講師のかかわる余地があるのだろうかというところが疑問に思うので、ご説明いただきたい。

説明者　商店街のお店のどのような行動が SDGｓのアクションにつながるのか、なかなか素人ではわからない部分があり、そこを SDGｓ東北の今までの経験の中から、例えば箸を分別する、残さず食べるなどというところが SDGｓに繋がっているというこ

とをご説明いただいた。かなり多くの例を頂いたので勉強になり、各お店にフィードバックして、そこから動画により各家庭に繋がっていくと考えている。

委員　先ほども指摘があったように、セミナー関係費で助成額の全額というのは考える余地があると思う。セミナー参加費が 1,000 円であり、もし本当に価値があるのであれば、金額を上げても皆参加するのではないかと思う。八幡の商店街は発想が自由で、自由に活動されているので、むしろそういう自由な発想を活かしてみんなが言い合ったほうがファンコミュニティの活性化にもつながるし、SDGｓに繋がっていくのかと思う。無理にお金を掛けなくても、そのほうがむしろいい活動になると思う。

委員　私は、商店街と子供たちが生の SDGｓを学ぶために商店街の皆さんを活用しているイメージ、日常の中にあることが実は SDGｓに繋がってるという子どもたちの学びにつながるための要素を商店街の皆さんが知恵を絞ってプロに教えてもらったというイメージを持った。いろいろな例が各商店で出てきたというのが今後にもつながると思うので、学校や家庭の子ども達と商店を関連付けていくと、商店街の活性化にもつながるかと思う。

委員　商店街を活性化させる難しさはよくわかる。セミナーに参加する方は毎回同じなのか。

説明者　ほぼ同じである。

委員　セミナーの参加費を少しでも上げ、また、広報なども含めて町内の商店街の皆様に興味をもって頂き、たくさん参加してもらうようになれば、少し財政的にも安定すると思う。取組みは素晴らしいことだと思うので、ぜひ頑張っていただきたい。

⑧ 定禅寺リビングストリートプロジェクト

※質疑応答なし

⑨ 一般財団法人　仙台 YWCA

委員　おばあちゃんの技はなかなか説明しにくく、一緒にやることで伝わっていくと思うので、非常に素晴らしい企画だと思う。毎回のワークショップに保育が必要な子どもは何人ぐらい来るのか。

説明者　今年度は毎回２、３人だった。２、３人だと保育者２人で十分だが、これから人数が増えたり、活発に動き回る年齢の子どもが増えたりすると、少し足りないかと思う。

委員　今年はなんとかなったということか。様々な年齢層の子どもがいると保育の内容も異なってくると思うので、事故のないように気を付けていただければと思う。

委員　コロナ禍で８回も実施するのは大変だったと思う。無事全部できて良かった。子育ても世代間の交流であり、様々な世代の方がいらっしゃることにより、上の世代の方々に少しお子さんを見てもらっている間にお母さんが作業をされるなど、手仕事ならではのお互いの交流をしながらのほうが、保育士・有資格者がいますとい

うよりも、日常の一場面に追加されるにはやりやすいと思う。ワークショップのレベルが高すぎると講師謝礼や材料費もかかるし、気軽に実施するのが難しいと思うので、助成を受けている間は様々なものを追求していただきたいが、その中で1回ぐらいはみんなで子どもを見合いましょうという回があると、子育ての伝承になるのではないかなと思う。

⑩ せんだい21アンデパンダン展実行委員会

委員　　魅力的な取り組みが多く、時間内にいろいろ回るのも大変だろうと思いながらお話を聞いた。まち歩きのようなものを企画したり、まちの中心部の商業ビルの中でやられたりなどしたが、来場者は増えているのか。

説明者　　来場者に関しては増えている。やはり仙台フォーラスを会場にしたことが大きい。ギャラリーだとまちの中心から少し離れたところにあり、来場者の多くは熱心なアートファンで占められていた。他方、フォーラスだと、買い物ついでに見に行こうというようなことがあった。メディアテークや宮城県美術館でやったとしても、そういうものが好きでアンテナを張っている人が来るが、商業施設の中でやるということはまた違ったお客さんが増えており、いい効果だと思っている。

委員　　今後もフォーラスでの開催を予定しているのか。

説明者　　来年度も実施予定で、場所が借りられるうちは続けていきたいと思っている。

(3) その他

4　閉会